

1 CKとはどういうものですか？

CKはクレアチンキナーゼの略語です。筋肉にエネルギーを貯めるときに働く酵素で、全身の運動をつかさどる筋肉（骨格筋）や心臓の筋肉（心筋）に多く含まれています。したがって、それらの筋肉が傷害されたときに、血液中で高値になります。

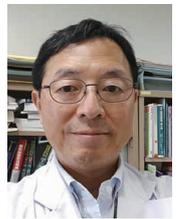
検査のはなし vol.10

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること⑦

「血清CK (クレアチンキナーゼ) が高いと言われました」

日本臨床検査専門医会
山田俊幸



2 どんな病気の診断に使われますか？

最も重要なのは急性心筋梗塞の診断です。急性心筋梗塞は、心筋を潤す血管が閉塞して心筋が壊死に陥る病気で、発作が起こって3～6時間後にCKが上昇し始めます。後述します骨格筋による上昇と区別するために、心筋に特異的なCKの亜型（CK-MBといいます）も調べますが、心筋により特徴的なトロポニンという物質を検査し、心電図と合わせ総合的に判断することが今では一般的です。



一方、骨格筋の病気としては、筋ジストロフィーのような筋肉の変性疾患、多発性筋炎のような筋肉の炎症、外傷による筋挫滅などでCKが高値になります。ごくまれですが、コレステロールを下げる薬の副作用である筋融解症という病態でも高値となります。



3 病気以外でも異常になりますか？

運動をすると、筋肉がはつきりと傷害されるわけではなく、CKが高値になります。運動が激しいほどその値は高くなります。また、筋肉に注射を受けた場合でも高値になります。



4 CKが高いと言われたら？

普通は、心筋や骨格筋に異常があると疑われた場合に検査されます。もし、健康チェック時や偶然測定されて高値であった場合は、運動や筋肉注射など病気以外の原因を除外し、慢性の筋肉の炎症があるか、甲状腺機能の低下はないか、などを調べることになります。